

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所の特徴	「要介護状態になっても地域とのつながりを絶やさない」「地域の中の施設」をコンセプトにしています。介護が必要になった人が家族や地域とのつながりを保ちながら、生活を送れるように「通い」「訪問」「泊まり」の3つのサービス形態を本人、家族の希望に合わせ柔軟に組み合わせて利用できます。「通い」「訪問」「泊まり」どのサービスを利用していてもいつも顔なじみのスタッフがケアを行います。少人数登録制のため家庭的な雰囲気での他の利用者・スタッフと楽しく過ごすことができ認知症の方も不安なく過ごすことができます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護撰田屋	管理者	佐藤 佳代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	4人	1人	1人	1人	1人	3人	0人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 個別サービス計画に沿ったケア援助を1つ1つ確実にいき、評価・実施していく。 日々の関わりの中で、言葉だけでなく、ご利用者の小さなサインに気づいたり、言葉にならない隠れた真意を読み取るコミュニケーション力をつけ、ご利用者皆様が笑顔で暮らし続けられるようお手伝いしていく。(ご利用者の「～したい」という思いや「以前の暮らし」等からその人の背景をしっかりと読み取りながら、日々のアクティブ活動やケアに活かしていく) 	<ul style="list-style-type: none"> 「～したい」といったご利用者の意向を確認し、関係性を深めることが出来た。 日々の計画の有無を確認することで、援助計画を見る機会も増え、計画を実施することにつながった。 ミーティングや回覧を通して情報共有を行い、援助に活かした。 	<ul style="list-style-type: none"> ご利用者の意向を確認できる方とそうでない方がおり、全てのご利用者の意向を確認出来なかった。 計画の方向性は継続していき、ご利用者と関わる機会を増やし、ご利用者をより理解出来るようにした方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別サービス計画に沿った援助を1つ1つ確実にいき、評価・実施していく。 日々の関わりの中で、ご利用者に積極的に話しかけ、ご利用者の意向、ニーズを理解できるように努める。関わりが難しいご利用者にも、職員間で情報共有を行い、様々なアプローチを考えていく。事業所ミーティング等でも意見交換を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>新しい生活様式の中で季節感を取り入れた飾りや雰囲気づくりを行いセンター内の環境を充実させていく。 (地域ボランティアとの関わりを継続)</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であるが、施設内の装飾等は春夏秋冬が分かるように工夫して行えた。 花のボランティアの方との関りは継続して行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 居室をご利用者に合せて整えること等、実施できないことがあった。 計画はコロナ禍の中で可能な限り行っていく方向で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活様式の中で季節の飾りつけや、頂いた花をフロアに飾り付ける等、普段とは異なる雰囲気を楽しんで頂けるように環境を整えていく。 地域ボランティアとの関りは継続していく。

C. 事業所と地域のかかわり	感染症により地域との関わりが少ない今だからこそ、基本的な地域の方との関係を挨拶や広報誌等を通して情報提供していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との挨拶を積極的に行い、関りを持つよう行動した。 ・広報誌を配布し、施設の情報発信を行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き挨拶を行うことは継続的に行い、関りを持っていきたい。 ・計画は継続的に行ってよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの流行は収まらず、地域の方との交流を持つことが難しいが、挨拶を行い、広報誌の配布等、地域との関ることを続けていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み	新しい生活様式を取り入れ、利用者 と地域との関わり方を再度作り上げていく。 (イベントへの関わり方等)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響もあり、地域に向くことが非常に難しく、限定的に関りを持つことしか出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でイベント参加もできず、計画の実行が困難だったため、計画を継続し、実施できるように努めていけばよいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者が地域と関われる方法を模索していく。イベントへの参加等、地域行事への参加は新型コロナウイルスの流行状況を顧慮しながら検討する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	職員一人一人が運営推進会議の内容を理解し、運営推進会議を通して地域の方と話し合える環境を継続して作り上げていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の回覧等を通して、運営推進会議の内容を確認し、情報共有を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍もあり、会議を開くことが困難なこともあるが、情報の共有は努めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人一人が回覧物等を通して運営推進会議の内容を理解し、運営推進会議を通して地域の方と話し合える環境を継続して作り上げていく。
F. 事業所の防災・災害対策	今後も防災・災害対策計画をもとに地域と事業所が一带となって取り組み協力体制を継続していく。 (訓練の際は家族にも連絡、報告。地域住民の方にも参加をお願いする)	<ul style="list-style-type: none"> ・電話連絡の訓練を地域の方と一緒に出来たが、コロナ禍の為、防災・災害訓練を地域の方で行うことが出来なかった。 ・施設職員間では訓練を行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との合同訓練は必要であるため、コロナの状況を踏まえて、出来る方法を考え、実施出来るように働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの流行状況を踏まえ、実行できる方法を模索しながら、防災・災害対策計画をもとに地域と事業所が一带となって取り組み協力体制を継続していく。 ・訓練の際は家族にも連絡、報告を行い、地域住民の方にも参加をお願いする。